

令和 7 年 4 月 1 日

令和 7 年度 学校経営方針

大田区立南六郷中学校

校長 椎野 要

1 学校経営の基本方針

おおた教育ビジョンの理念である「笑顔とあたたかさあふれる未来を創りだす力を育てます」を踏まえ、本校の教育目標を実現する。そのために、予測のできない未来に向けて、多様な経験を通じてより良く生きていくための資質を生徒が身に付けられる教育の実現を目指す。特に「自ら考え行動する生徒」を合言葉に全教員が組織として協働し指導にあたることで、生徒や保護者との信頼関係を深め、生徒が意欲的に学び、生き生きと様々な教育活動に取り組める学校経営に努める。

2 学校教育目標

「健康で思いやりがあり、実行力のある生徒を育成する」

3 学校教育目標の具現化に向けて

◎目指す学校像

《生徒が主体的に活動し、一人一人が活躍できる学校》

- 社会でより良く生きていくための資質を、全教育活動の多様な経験を通じて身に付けられる学校
- 持続可能な社会の担い手として、他者との関わりを通じて生徒が自己形成できる学校
- 生徒・保護者・地域・教職員にとって誇りとなる学校

◎目指す生徒像

《自ら考え行動できる生徒》

- 変化の激しい社会を生きていくために、すべての教育活動を通して、自分で考え判断し、行動できる力を身に付けようとする生徒
- 自他ともに大切にできる心を持ち、多様性を認め、協働して成長しようとする生徒
- 基礎学力を身に付け、思考力を培い、主体的に学ぼうとする生徒

◎目指す教師像

《真摯に誠実で自己研鑽への努力を惜しまない教師》

- 生徒に対する深い愛情、教育者としての責任感と誇り、高い倫理観と社会的常識など、教育に対する熱意と使命感を持つ教師
- 全ての生徒の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現と、確かな学力の定着にむけて授業改善に取り組む教師
- 生徒自らが考え、生徒主体で展開する授業の実践にむけて意欲的に自己研鑽し、授業改善に努める教師

4 令和7度の重点目標と方策 ◎3年間を見通した系統的な指導の推進

(1) 基礎学力の定着と学力向上、規則正しい生活習慣が身に付く学校を目指して

- ①基礎的・基本的な学習への取組と振り返りの学習を通して、学力の定着と発展的な学習への啓発を図る。さらに、言語活動の充実を図るため、主体的で対話的な学びを充実させ、深く探求することで既習内容を活用する力を育成し、学力の向上を目指す教育を推進する。
- ②「めあて」や「評価基準」を提示し、授業を通して何を学ぶのかを明確にすることで、生徒一人一人が自らの課題に気付き、その課題に主体的に取り組めるようにする。「自己調整」や「他者参照」をキーワードとした授業を実践し、個別最適な学びを充実させた授業を展開し確かな学力の定着と向上をはかる。
- ③生徒がタブレット端末を活用することを前提とした授業を指導計画に位置付け実践する。特に、調べ学習をする際や、意見の共有などの協働学習を行う道具としてタブレット端末を活用する。
- ④全校一斉の朝読書の取組を通して、読む力、理解力を育て、各教科等の学習の基本となる言語能力の向上と自ら学ぶ習慣の定着を図る。
- ⑤「特別の教科 道徳」の授業を要とし、誰一人取り残さない持続可能な社会の視点で日常生活を見直す。道徳教育の充実とすべての教育活動を通じた対話的な学びを実践することで、組織を担う当事者としての意識を高める。
- ⑥全教職員が統一した姿勢で3年間を見通した指導に取り組むとともに、教職員全体が生徒に考え判断させ、生徒の気づきを大切にする指導と見守りを行う。
- ⑦早寝・早起き・朝ごはん等の取組を活用することで基本的生活習慣を定着させ、規則正しい生活の確立を図る。

(2) 生徒一人一人が活躍できる学校を目指して

- ①生徒と教職員が一体となって学校行事や生徒会活動、部活動等を活性化し、生徒の自尊感情を育みながら、明るく活気に満ちた「スポーツと文化の南六中」を築く。特に部活動に関しては、ハイブリット型地域連携・地域移行モデル校として、指導員の専門的な指導によって生徒の技術力の向上や自己実現につなげていく。
- ②教育活動全体を通して、「小学校から」と「高等学校へ」の接続を意識させることで、生徒自らが生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、生涯にわたる自己実現を図ることができる能力を育成する。その際、キャリア・パスポートを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら自己反省・評価を行うことで主体的に学びに向かう力を育む。
- ③学級活動や生徒会活動、学校行事（文化的行事、勤労生産奉仕的行事など）、部活動等を通し、生徒一人一人の個性の伸長を図り、人間関係形成、社会参画を行い、集団の中での自己有用感や自己肯定感、自己実現の喜びなどを体感させる。

(3) 地域社会に貢献できる生徒を育てる学校として

- ①小中一貫教育の実践として、教科毎の分科会を開いて、各校のキャリア・パスポートに関する取り組みや学習指導要領の指導事項の確認をするなど、9年間を見通した学習指導を目指す。
- ②近隣の都立特別支援学校も含め、副籍交流等の交流活動を積極的に行う。
- ③保護者・地域から信頼される開かれた学校を目指し、積極的な情報発信に努めるとともに、ペーパーレスと各種情報発信ツールの活用を推進し、直接保護者の手元に必要な情報を届けられるように努める。また、保護者や学校関係者評価の要望等を踏まえ、対話を通して随時建設的に改善を行う。